



ヨルダン川

ベテ・シェアンから4、50分走りティベリアに向かう道すがら、ヨルダン川が見える地点があると聞き、それをカメラに収めることができました。ヨルダン川の中央がイスラエルとシリアの国境線で、その場所は緩衝地帯で立ち入り禁止区域とのことで、国境を自覚することのない日本人としては感慨深いものがあります。そして、最も訪ねたいと願っていたガリラヤのティベリアに夕方に到着しました。

ホテルは、町の中心地にあり、山側の部屋に連泊となりました。テーブルにワイン、果物が置いてあって、バスローブもありました。嬉しい!とまず喜びました。同行の友人は洗濯しようなどと殊勝な心がけになって、主婦顔に戻りました。私は、そんなこと、有り?

窓から眺めると、ガリラヤ湖に沿った道路の西はすぐに山手となって、家々が頂上までぎっしり建っています。ティベリアはローマ皇帝の名前を付けただけあって、かなりの都市でした。

朝、「今日の夕方から安息日になるので、早めに行動を終えましょう」とガイドの声に追い打ちをかけるように雪が舞い落ちてきました。今日の最初の目的地はピリポ・カイザリアです。ヘルモン山に向かう山道をバスの運転手さんは「初めての雪だ!」と大はしゃぎでぐんぐんスピードを上げました。もちろんタイヤはノーマルです。雪はどんどん降り出し、私たち一行の気持ちは青ざめてきました。



ティベリアから小一時間でヘルモン山からの水の湧き出る古代の遺跡、ナハル・ヘルモン国立公園に着きましたが、「予想にない大雪、安息日で早め終了」が徹底し、管理人も帰宅、鍵は掛かっている、入ることはできませんでした。門の前で、ポーランド人ツアーが可愛い雪だるまを作ったり、雪合戦を始めたり、こちらはなぜか大はしゃぎ。フェンスの間から遺跡をチラリと見て、バスに戻りました。

イエスは、弟子たちとフィリポ・カイザリア地方の方々の村にお出かけになった。その途中、弟子たちに、「人々は、わたしのことを何者だと言っているか」と言われた。弟子たちは言った。『洗礼者ヨハネだ』と言っています。ほかに、『エリヤだ』と言う人も、『預言者の一人だ』と言う人もいます。」そこでイエスがお尋ねになった。「それでは、あなたがたはわたしを何者だと言うのか。」ペトロが答えた。「あなたは、メシアです。」するとイエスは、御自分のことをだれにも話さないようにと弟子たちを戒められた。(マル8:27)

ペトロが最初に信仰告白をした場所、フィリポ・カイザリア(バニアス)地方には、現在はシリア人が住む町がありますが、森林部分は、シリア軍が記録もせずに残っていた地雷の原となって、道路以外には立ち入りはできません。地雷危険を示す標識が並んでいます。静かに山々が連なっている美しい場所が紛争の場になっていることは、残念でたまりません。

同行の友人はご子息からゴラン高原の近くにだけは行かないようにと言われたとのことですが、ゴラン高原の一部に、ここはあるのです。トリプルパンチを食らったような彼女の青ざめた、美しい顔。ガイドは、バニアスは停戦ライン内で、PKOにより守られている地区であり、ゴラン高原では一度もドンパチがあったわけではない、マスコミはトピックスが全体かのように報道しているが、ご覧のとおりです、と安全性を訴えました。ただ、自然には勝てない。バスはUターンして、ガリラヤ湖へ帰ることになりました。バスの中はほぼ終始無言で、息を飲みながら帰ったわけです。